



夏の行事

一般社団法人相模原ダルク 代表理事 田中秀泰

立冬の候、皆様ますますご繁栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。お陰様で相模原ダルクの利用者、スタッフ共に変わらず全員健康で元気にそれぞれのプログラムに励んでおります。

この夏は色々な行事がありました。各地でのエイサー演舞に加え、日本ダルク新理事長に就任された岩井さんの喜寿のイベント参加、山中湖にて 6 施設合同キャンプ参加、沖縄ダルクフォーラムに 4 名のスタッフが参加、相模原市青根で行われた相模原ダルク単独キャンプ等、コロナ禍以前のような大きなイベントに参加する事ができました。

茨城ダルク岩井代表とは、今までこれといった関わりがあったわけではありませんが、最近はよく声をかけて頂くようになり本当に感謝しています。喜寿のオープンスピーカーでは主に茨城ダルク卒業生の回復のお話が聞けました。今から 30 年も前からの気苦労、ご心労は大変なものだったと思います。依存症者には無力で、利用者が陰でしている悪さや、スリップを分かっているにもかかわらず分からないふりをしていたとのセリフが、なんとも腑に落ちて依存症者と向き合う事の難しさを再確認できました。

毎年恒例だった山中湖キャンプもコロナ禍で延期が続き、4 年ぶりに開催されました。6 施設約 200 名の仲間との合同でしたので非常に盛り上がりました。大勢の仲間とミーティングや BBQ で分かち合い、充実した 3 日間になりました。準備、設営していただいた山梨ダルクの仲間には本当にお世話になりました。

沖縄ダルクフォーラムにスタッフ 4 人が参加させて頂きました。日頃は仲間のサポートで自分の時間が取れないほど忙しく頑張ってくれているスタッフの唯一の楽しみが、寮から外泊して他ダルクのフォーラムや行事に参加する事だと思っています。今回も那覇のホテルに 3 泊させて頂いて、沖縄ダルクフォーラム参加以外にも卒業生で沖縄在住の H さんのサポートも頂き沖縄観光を楽しみました。H さんありがとうございました！

相模原ダルク単独でのキャンプも無事楽しく行えました。単独とはいえ 50 人からの大所帯ですから、企画、準備は大変なものだったと思います。頑張ってくれたスタッフの皆さん、協力してくれた利用者の皆さん、本当にお疲れ様でした。今後も毎年恒例のイベントになればと期待しています。

秋から冬にかけてもソフトボール大会や他ダルクのイベントは目白押しですので、積極的に外部の行事を取り入れて仲間の回復に繋げていければと思っています。

『6 施設合同山中湖サマーキャンプ』

アツオ

いま相模原ダルクに入寮して 4 年 7 ヶ月が経つ薬物依存症のアツオです。今年の 9 月 6・7・8 日の 3 日間で 4 年ぶりにダルク 6 施設合同山中湖サマーキャンプが開催され、私にとっては 2 度目のキャンプに参加させて頂きました。前回参加したのはまだ私が入寮して 5 ヶ月くらいの時でした。つながって間もなかったこともあり、主催施設との連絡や話し合いなど当時は全く知る由もありませんでしたが、今回はすべてに携わらせて頂きました。また 2020 年からのコロナ禍で各施設ともに交流自粛でこの 3 年間はほぼ施設間交流がありませんでした。その間につながった新しい仲間は他施設との交流もなく、相模原以外の仲間とのフェローシップの経験もほぼありませんでした。そんな状況もあり、今回のキャンプは初めての仲間を中心に参加させていただきました。

まず最初に私が前回参加した時のことですが、前は私もつながって半年たたないくらいでしたが食事の準備などの手伝いをさせて頂いて他施設の仲間と関わる中で、色々な刺激と同じダルクという施設ではあるものの各施設によって細かいことが違うことに軽いショックを受けました。当時の私はどここの施設は自由だな！あそこの施設は 1 日にもらえる金額が多くていいな！など、目先のことだけをみて自分が在籍している施設と比べては他施設のいいところに目がいっていたように感じます。今になって思い返すとこのような経験があったからこそ感じられたことや、今迄だったら思うようにやってきたし我慢もしなかった。お金だってあればあっただけ使った。私にとっては少ない金額でやりくりする経験、自分の思い通りにならないことが多くストレスに感じながらも自分と向き合い、暴力・薬物に頼らない生き方を志す第 1 歩だったように思います。新しい生き方として見栄を張らずに自分の身の丈に合った生活をするためにも本当に良い経験でした。

そして今回のキャンプの初日は夕食の準備に相模原・川崎の仲間がコミティーでタコライスを作りました。初日の夜には NA ミーティングが各部屋で行われ、2 日目は午前中にダルクミーティングを各部屋で行い、昼食で B B Q、そして夜にはキャンプファイヤーをしながらオープンスピーカーズミーティングで各施設の仲間の話を聞きました。最終日はあいにくの天候で雨が降ってしまいましたが朝食後に、掃除をしキャンプ終了となり各施設解散しました。私は他施設との交流のために山梨・川崎の仲間と同じ部屋になりました。5 人部屋でしたが私以外の 4 人の仲間はみな 10 年を超えるクリーンタイムの先ゆく仲間たちで、施設内でも責任ある要職に就かれている仲間ばかりだったので緊張しながらの 2 泊 3 日でした。自分なりに今回のキャンプに参加するにあたり課題を設けました。施設は違っても相談や愚痴が言える仲間を 1 人でも多く増やしたいとゆうことです。そんな自分なりの課題を設け参加したキャンプでしたが、部屋でのミーティングでは「最近の自分」というテーマでミーティングを行い私の倍以上クリーンがある仲間でもいまだに苦しいこと・欠点・自分の病気に苦しめられながらも向き合っている日々の生活を送っているなかで薬物やアルコールに頼らずちょっとした楽しみを見つけていることが分かり、少しホッとしました。回復には終わりが無いことを改めて実感し同時に私はプログラムにつながりまだ 4 年 7 ヶ月ですが、48 年間生きてきて 30 年以上は自分本位で利己主義的な生き方をしてきたのでそんなに簡単に変えられるはずもないですが、つながった当初から比べるとこれでもだいぶ楽になり、楽しいことも増え薬物に頼らなくても生きていけるかもと、希望が見えてきました。

最後になりましたが今回の合同キャンプを通して多くの仲間の必要性に改めて気づきました。施設の特性上、外部の人との接触が少なく閉鎖的な生活を送っているのでもいつも合わせている顔ぶれに変化がなく、施設内では近からこそ相談できない内容などもあり、そのような時にはお互いに愚痴でも言い合おうよ！と、言って連絡先の交換をしていただいた仲間が多くいます。この 3 日間先ゆく仲間の仲間に対する接し方をまちかで目にすることができました。全てをまねすることは今の自分にはできませんが、自分なりに考えて取り入れられるものは取り入れて自分の成長につなげられたらと思います。仲間を大切にすることは自分を大切にすることにつながるということを忘れずに、仲間の力を借りながら自分のペースでゆっくりと投げ出すことなく回復の道を歩んでいきたいと思います。日頃は言えないでいますが気づきや力を与えてくれる仲間感謝です。

『沖縄旅行&沖縄ダルクフォーラム』

キズナ

9 月 1 日～4 日に掛けて沖縄に行かせて貰いました。8 月いっぱいスタッフという役割を降り、思い出作りという名目、代表の配慮で行かせて貰いました。行かせて貰えるという事を 3 ヶ月程前に知り、とても楽しみにしていました。初日は約 8 年振りの飛行機、4 人で沖縄へ。レンタカーを借りホテルへ、夕食は定食屋へ行き、4 人別々の定食を頼みつつあいました。色んなチャンプルー美味しかった。2 日目は僕が施設に繋がったばかりの時に居たヒロさんと食事、首里城散策、沖縄ダルクフォーラム、AA 参加。まず最初に行ったのは首里城、何年か前に燃えてしまった箇所の修復作業を見てきました。細かい所まで精密に造られていました。散策の途中で雨に降られてしまい、車に戻りその足で食事に向かいました。僕は三枚肉定食を食べました。美味しかった。食後、フォーラムまで時間があつたのでヒロさん案内のもと小道の散歩に行きました。大きい樹を見たり、がじゅまるを見たり自然豊かな場所でした。がじゅまるは小さな鉢に入っている物しか見た事なかったので自然の中ではとても大きくなるのだと知りました。次に沖縄ダルク 29 周年のフォーラムに行きました。知っている仲間が沢山居ました。久しぶりに会えた仲間も居て嬉しかった。仲間の体験談の時、目の前で家族との再構築の瞬間を見る事が出来ました。次に岩井さんの話を聞きました。他のフォーラムで何度か話を聞いた事があります。毎回ぶっちゃけた話を聞く事が出来るので聞いてとても楽しかったです。近藤さんの事が大好きなんだなといつも感じます。最後にエイサーを観ました。曲はダルクエイサー 5 曲。地跳で会場が一体化していました。フォーラムが終わり「沖縄の NA に参加しよう！」という事で調べ会場へ行きました。NA ではなく AA がやっていました。僕はアルコール依存症なのですが AA に参加するのは今回が初めてでした。この日はハイブリッドのミーティングで、パソコン越しに数名居ました。1 時間だけのミーティングで、聞きに回っていました。発言すればよかった。AA が終わり国際通りに行きました。食事出来る所を探し回り、海鮮系のお店に行きました。ずっと海ぶどうを食べたかったので、食べる事ができて良かったです。美味しかった。食事が終わりホテルへ戻り 3 日目に行く場所を決めました。3 日目はひめゆりの塔、玉泉洞、エイサー会館、国際通りの散策に行く事を決め、朝一で動き始めました。まずはひめゆりの塔に行きました。皆が考えている様な塔ではなく石碑でした。次に行ったのは玉泉洞という鍾乳洞。ライトの当たり方がとてもキレイで、すごく涼しかった。何年、何十年と掛けて出来上がって行くのはすごい事だと思います。次にエイサー会館に行きました。エイサーはダルクに繋がって知りました。プログラムの中で一番好きです。エイサー会館ではエイサーの歴史だったり、実際に衣装を着たり、太鼓を叩いたりしました。頭帯の巻き方を目の前で見てきたので今後の演舞に役立ちそうです。過去のエイサー動画を観たり、グッズ販売コーナーを見たり、結構長い時間見る事が出来ました。お昼は球屋という車えびのお店に行って食事を取りました。焼いて食べたり、刺身で食べたり、天ぷらで食べたり、色んな食べ方を堪能しました。僕は刺身で食べるのが一番好きでした。午後は国際通りに行きました。偶然地元の創作エイサー隊がエイサーをやっていました。曲は知っているけど僕の知っている踊りではなくて新鮮でした。その後国際通りを長い時間を掛けて見て回りました。夕飯はサムズというステーキ屋に行きました。店員さんが目の前でパフォーマンスをしてくれました。観ていて楽しかった。ステーキはボリューム満点で「こんなに食べられるのかな？」と考え食べ始めましたが、ペロリと完食出来ました。美味しかったです。食後はホテルに戻りました。やり残した事はありませんが、少しずつ近づいてくる現実。「もっと沖縄に居たい！」と考えていました。最終日、ホテルで最後の朝食を済ませ、名残り惜しくもホテルをあとにし、レンタカーを返しに行きました。搭乗まで時間があつたので空港内のお土産屋さんを見て回りました。お土産をいっぱい買ってきました。そして搭乗時間になり飛行機で羽田空港に戻りました。仲間が車で迎えに来てくれました。寮に近く連れて現実に引き戻されて行きました。3 泊 4 日の沖縄旅行、とても楽しかったです。一緒に行ったタオさん、アツオさん、ターシーさん、色々行く場所を考えてくれたり、運転ありがとうございました。ヒデさん、とても良い思い出が作れました、ありがとうございました。これから就労活動、ゆっくり見つけて行こうと思います。読んで頂きありがとうございました。

『不器用な男への言葉』

サチ

自分の人生をつまらなくしているのは私だった。世の中をねじまげて見ているのも私だった。それでいて社会に認めてもらいたい孤独な私は、愛を欲しがり、求めるものも大きく、思い通りに行かないと自分らしさや感情を捨ててでも手に入れてきた。離れて行く人達もいた。それでも思い通りに歩いていると思って、覚醒剤で遊んでいた。

私が覚醒剤の味を知ったのが 13 歳の時だ。気持ちの切り替えが不器用で使い始めた。初めての時は、女の子と育って来た環境が重なったのがきっかけだった。覚醒剤が体に入ると、世の中がレインボーに見えて、全身の毛穴がアンテナになり、音楽と風は最高に気持ちが良かった。覚醒剤が入ってない世の中はドンヨリしていてスローな感じの日々。デレーっと夜が明け、デレーっと一日が終わって退屈だった。退屈は色々な事を思い出させる。淋しい時の孤独、置きざりになった時の虚しさ、泣いても叫んでも目を覚ましてくれない母との別れ。辛くて、苦しいけど、歯を食いしばり我慢してきたそれぞれのシーンがよみがえってくる。気持ちを切り替えられない不器用な心に受けたキズが、感情と思考回路を壊したようだ。本来ならば愛情が心のキズを癒してくれるはずだった。しかし私の場合、それが覚醒剤だった。手軽に手に入る快楽、裏切らない覚醒剤。心のリズムが最高になる、まさにハイテンション。覚醒剤のキレ目には酒を飲んだ。決して強い訳ではない。量が飲めるのではないが、長い時間飲んだ。夜中にトイレで目が覚めれば一口、朝起きて一口、酒と覚醒剤を交互に使った。酒のせいで急性膵炎となり 4 回入院した。それでもアルコールに依存しているとは気がつかなかった。それがわかったのはだいぶ後だった。

薬物やアルコールは記憶を消す事はできない。感情のブレ、歯を食いしばって耐えてきた記憶を、ごまかしてはくれなかった。トランプの大富豪というゲームでは、ジョーカーはすごいカードだが、最後まで持ち続けていると最下位となる。覚醒剤とは、ジョーカーだ。すごいものだったが、それを最後まで持ち続けた私は、依存症という病気となり、人生はどん底、最下位となった。行きついたのは刑務所だった。それがターニングポイントだった。誰も信じられない冷たい場所、幼い頃に味わった事のある感覚。感情の無い、暗い淋しい空気が流れていた。刑務所の面会で家族がくれた言葉。それが私を現実の世界に戻してくれた。私は、薬物は 30 年、酒は 4 年半、タバコは 15 年やめたことがあった。だから簡単にやめる事が出来るだろうと思っていた。出所近くになっても、気持ちは揺らいでいた。そんな時、家族に面会でダルクを勧められた。すぐに行くと返事をした。家族の笑顔が本当の笑顔ではなかったからだ。その時、犯罪者の家族の気持ちが頭によぎった。ダルクに行くにあたり、なによりも家族の気持ちを裏切らない決意が強かった。絶対に家族の笑顔を元に戻す。それには覚醒剤をやめる。目的は決まった。それには何が必要なのか……同じ考えを持つ人達が必要ではないか。依存症の病院でもダメだったけど、しかし本当にやめている人達がいる。私もその人達の生き方を真似すれば希望があるのではないか。頭で考えるより実体験が大切、その後から心が出来上がって来るのではと。薬物を手に入れない！のではなく、心を作り上げて行く。まずは気持ちからと思って取り組みだした。

新しい環境、社会から少し離れた生活が始まった。しかしその環境に戸惑い、不安も生んだ。生活を共にする者どうしの心の摩擦は非常に厄介だ。今までは、自分に降りかかる火の粉は自分で振り払っていた。だがここでは対話が大切なのだ。心の摩擦をなじませるには、納得するまで話し合うのだ。事あるごとに、この環境の生活で純粹に覚醒剤を止め続けることだけを考えた。私は心を静めるのに家族の刑務所での顔、私に言ってくれた言葉、何よりも亡き母が私に残した言葉を思い出す。私の心をなじませてくれる言葉だ。言葉は心を深く大きくしてくれる。ゆとりが生まれ、生活に光が差し、心が豊かになる。そうすれば、気持ちがブレても耐え、貫くこともできるだろう。

自分を変えて行くには、環境、日々の生活で色々な事に気付かせてくれる仲間が大切だ。仲間は、大切な心に残る言葉をかけてくれる。私は今、不器用ながら感じている。その言葉の意味を。人は愛に触れると誰でも変わる、と聞いたことがある。プラトンの言葉だ。私も良い方向に変わって行きたい。

6 施設合同山中湖キャンプ



第一回相模原ダルクキャンプ



岩井理事長 喜寿のお祝い

沖縄ダルクフォーラム



9 月家族会(山木先生)

10 月家族会(水澤先生)



メンバー報告

10月のステージアップ

新規入寮者

タカシ *Stage1* に仲間入り！
クロちゃん *Stage1* 仲間入り！

メンバー

コンチャン *Stage5* に UP！
キズナ *Stage4* に UP！
カツオ *Stage2* に UP！
タリー *Stage2* に UP！

スタッフ

ヨッチャン トレイニーへ昇格！

施設報告 10月1日現在 利用者47名です。

Manager 3名		Chief 2名		Trainee 6名		Support 3名
Stage1 4名	Stage2 9名	Stage3 9名	Stage4 7名	Stage5 1名	通所者 3名	

活動報告・予定

8月報告

1日 個別支援計画会議
2日・9日・16日・23日・30日
北里大学病院治療プログラム（KIPP）
3日・24日
八街少年院薬物依存離脱指導
4日・18・25日
相模原市精神保健福祉センター内
依存症回復プログラム（FLOW）
5日 水澤都加佐先生、スコットジョンソン氏
による援助者研修会
7日 横浜保護観察所
9日 相模原市 令和5年度第一回再犯防止
推進ネットワーク会議
12日 駒木野病院メッセージ
14日・16日・23日
HRI 水澤都加佐先生カウンセリング
16日・18日・28日
寮長会議
19日 相模原ダルク 家族会
20日 駒木野病院懇談会 第52回記念大会
21日 HRI 水澤都加佐先生セミナー
22日 多摩総合精神保健福祉センター内
ギャンブルなどの行為依存防止
プログラム
相模原市精神保健福祉センター
依存症家族教室
長久保公園 エイサー演舞
29日 定例会議
30日 EC 会議

9月報告

1日～4日
沖縄ダルク フォーラム
1日・8日・15日・22日・29日
相模原市精神保健福祉センター内
依存症回復プログラム（FLOW）
2日 水澤都加佐先生、スコットジョンソン氏
による援助者研修会
5日 個別支援計画会議
6日・13日・20日・27日
北里大学病院治療プログラム（KIPP）
6日～8日
ダルク合同 山中湖キャンプ
9日・30日
駒木野メッセージ
11日・15日・29日
HRI 水澤都加佐先生カウンセリング
14日・21日
八街少年院薬物依存離脱指導
15日・19日
寮長会議
16日 相模原ダルク 家族会
17日 かみす舞っちゃげ祭り エイサー演舞
22日 定例会議
23日 依存症に関わる援助職のための
グループスーパービジョン
25日 HRI 水澤都加佐先生セミナー
26日 多摩総合精神保健福祉センター内
ギャンブルなどの行為依存防止
プログラム

相模原ダルク家族会のお知らせ

家族の回復は本人の回復と重なります。そのため毎月行っています。相模原ダルクスタッフ及び、外部から講師プレゼンターを招いてお話をお聞きいたします。相模原ダルク入寮者内外のご家族が集まり、勉強と交流の会（ミーティング）を開いています。依存症者の家族の方ならどなたでも参加できます。他の家族会の方も歓迎です。毎回 20 名程度が参加しています。ご希望により、施設スタッフとの面談もできます。

毎月第 3 土曜 午後 1 時半～午後 5 時 予約不要 直接会場（相模原ダルクデイケア 2 階）へお越しください。

*会費として 1 家族 2 千円をいただき通信費や講師謝礼に使わせていただきます。

<2023 年 6 月家族会報告>

6 月 17 日（土）1 時半～5 時 24 名参加（18 家族）

講師：高橋洋平弁護士「相談から始まる依存症と法律問題の解決のためのアプローチ」

（高橋洋平弁護士事務所、NPO 法人アパリ理事・嘱託研究員）

私は弁護士をしております高橋洋平です。相模原ダルクとの関係は顧問です。他に「NPO 法人アパリ」で、薬物を使用した方へのコーディネート支援、繋げる支援をしております。昨年より理事となりました。ダルクは自ら薬物を使用した当事者の団体ですね。アパリはそれとは別に専門家集団として法律家や研究者等からなるシンクタンクです。依存症を抱えた方々を支援につなげるのが役割です。アパリには 2 階に「アパリクリニック」がありまして、薬物その他の依存症専門クリニックとして、個性豊かな先生方がおられます。アパリは「家族会」の顧問もしておりまして、全国にある個々の家族会やダルクの家族会等を束ねる役割を担っております。立場としては当事者本人ではなくその家族である方の会です。薬物での一番のダメージは本人で、逮捕されることまた刑務所に行くことによって受けることがいろいろあります。そして家族もダメージを受けます。家族も辛い思いをします。1 人 1 人では伝えにくいその声を束ねて国に申し入れることをしています。家族会も設立の経緯や考え方が色々ありますし、意見が違って当然だと思いますが、広く薬物依存症で困っている家族の声を国に届けて制度を改革していこう、という所です。

今日お話ししていく内容は「相談から始まる依存症と法律問題の解決のためのアプローチ」です。ポイントは相談から始めるという点。困ったなーと、悩んでいるだけでは何も始まらないのです。最近は便利になりまして、スマホなりパソコンなりで調べることはできます。でもそれは相談に至ってない。調べたことで解決できることと出来ないことがあります。解決できることはそれでいいのですが、解決できない問題をどうやってやるか、一緒に考えるのが相談の始まりです。

依存症では精神疾患的な意味もありまして、ただちに法律問題につながるわけではありませんが、問題が周辺に広がると法律問題も出てくる。依存症自身で悩んでいる場合はシンプルに病院行ったりサービスに繋がったりすることですが。家族が一番困るのは、薬物で捕まるとか、お金を使ってしまって借金返済ができなくなるとか、相続の問題が出てきたり、依存症の派生的な問題ではありますが放っておくわけにもいかないものがあります。関係機関に繋げる必要もあります。やはり相談から始まるのですが、解決までのプロセスは一つだけではなくて、100 人いれば 100 通りの道があると思います。ご本人やご家族のニーズを踏まえながら解決を目指していくのですが。依存症の問題があれば本人は支援者に相談して、相模原ダルクにつながり入寮していれば回復のプログラムの中です。私が重視しているのはご家族の問題、ニーズをどう位置付けていくかです。

文責：伊藤

※公式ホームページ内、最近の記録欄に詳しい報告をお載せしております。ぜひご覧ください。

<献金御礼>

小峰阿也子様 大野悦司様 比留間陽子様 栢弘様 本田大輔様 秦野曾屋高校様 匿名様

<献品御礼>

清水静江様 都筑宗子様 山名三枝子様 針木伸佳様 林妃登美様 梅澤紘一郎様
守屋美樹様 鈴木優子様 渡邊克己様 仲井和義様 四反田勉様 匿名様

<献金・献品のお願い>

皆さま方には暖かいご支援をいただき、誠に感謝しております。重ねてのお願いで心苦しいのですが、大所帯となり食品・日用品が常に不足気味です。お米、缶詰、調味料、石鹸、シャンプー、洗剤、等々、ご家庭で余ったもの、献品いただけると助かります。ご家族には再三のお願いをしまいいりました。改めてニュースレター読者の皆様へ、献金・献品のお願いを申し上げます。

<振込先のご案内>

◎郵便振替払込口座 口座名「相模原ダルク」口座番号 00270-1-138788

※発送作業の簡略化の為、大変恐縮ですが郵便振替用紙は 2 号に 1 度のペースで全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解ください。特に必要のある方、『匿名希望』の方は、その旨を通信欄に、その都度お書き下さるようお願い致します。

プログラムディレクター水澤都加佐先生より：クロス・アディクションを知る②

新たな問題が出現する。二つも三つもの気分を変える薬物・行動に依存するようになるのである。すべての「気分を変える薬物・行動」を止めることが必要であることを学ぶために、いかに多くの依存症者がクロス・アディクションを経験しなければならないのか。そして再発をくり返す。すべての「気分を変える薬物」を止めることを受け入れるのは、依存症者にとって難しいことである。「すべてを止めるなんて現実的ではない、なぜなら使っている人だっているのに、そんなことは必要ない」などと考える。そして、薬を使うことを合理化し、理由を探す。「酒は止めた方がいいけれど、〇〇くらいどうということはない」という。「覚せい剤ではひどい目にあったが、酒ならいつもどうということはない」という言い方をする依存者もいる。しかし残念なことだが、これは事実ではない。(以下次号に)。

編集後記：代表巻頭言にもありますように、コロナの警戒も薄れ最近は多くの場に出かける事が増えました。中でもエイサー演舞は盛んで、遠くは茨城の神栖ぶっちゃけ祭り、近くは相模原市の健康フェスタ、市内のおやこ劇場、地域の星ヶ丘フェスタ等から呼びかけがかりました。皆張り切っています。また病院メッセージとして従来からの駒木野病院に加えて、相模湖病院にもズームですが再開できましたことを、ご報告します。（サービス管理責任者 伊藤いずみ）

プリンシプル

相模原ダルクニュースレター NO. 39

編集人：一般社団法人 相模原ダルク

〒252-0237 神奈川県相模原市中央区千代田 3-3-20

TEL042-707-0391 FAX042-707-0392

URL <https://s-darc.com> Email info@s-darc.com

発行人：特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102

定価 100 円

